

2016年 ピースボート地球大学 特別プログラム【大西洋区間】 「人道的軍縮、国際法、国連～新たなアプローチへ～」

2016年10月4日(火)～10月21日(金) [18日間]
ハーグ～レイキャビク～ニューヨーク

PEACE BOAT

ピースボート地球大学 特別プログラムとは

ピースボート地球大学特別プログラムは「地球一周の船旅」を活用した短期集中型の英語で行われるグローバル人材育成プログラムです。訪れる各地域での現場体験と洋上ゼミを組み合わせ、地球規模の課題を自分の問題として考える視点を養います。専門知識を武器に、現場の声を確実に拾いながら、思いやり (empathy) と情熱 (passion) をもって地球規模の課題を解決に導ける人材、先の見えない社会を牽引していく未来のリーダーのためのプログラムです。

※「ピースボート地球大学」は、NGO ピースボートがコーディネートする教育プログラムです。学校教育法上で定められた正規の大学ではありません。



プログラム行程

参加者は2016年10月4日(火)にハーグにて集合、現地でエキスポージャーを行った後、6日(木)から第92回ピースボート地球一周の船旅を催行中のオーシャンドリーム号に乗船。途中レイキャビクに寄港しニューヨークにて下船。1泊2日のエキスポージャーを行い10月21日(金)にプログラムを終え解散しました。

参加者

6カ国から6名(オーストラリア、フランス、アイルランド、ノルウェー、米国、フィリピン)

ナビゲーター

ランディ・ライデル

[元国連軍縮局上級政務官・平和首長会議顧問]

2014年まで16年にわたり国連軍縮局で核軍縮に取り組む。2005年から06年にかけては大量破壊兵器委員会で報告書の作成にも携わった。

武者小路 公秀

[元国連大学副学長・反差別国際運動副理事長]

ブリュッセル生まれ。国際問題の専門家の立場から平和を啓蒙してきた。政治や安全保障問題についての研究・執筆の他、反差別運動や人権運動にも力を注ぐ。

提携団体および視察先(一部)

- 核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)
- 化学兵器禁止機関 (OPCW)
- 国際反核法律家協会 (IALANA)

ゲスト講師

パブロ・ロモ

[人権活動家・メキシコ自治大学講師]

クリフトン・トルーマン・ダニエル

[ハリー・トルーマン元米大統領の孫]

羽後 静子

[中部大学教授]

伊高 浩昭

[ジャーナリスト、元共同通信記者]

コーディネーター

川崎 哲・寺地 亜美 (ピースボート)



「地球大学特別プログラム」で養われる3つの力

複数の視点を比較・統合する力

地球大学には世界各国から多彩な経験をもつ参加者が集まります。バックグラウンドや専門の違う参加者と経験を共有し意見を交わすことで、物事を様々な側面から捉えることを学び、多様な視点を比較・統合していく力を養います。

知識を応用する力

地球大学では主体的・実践的な学びを大切にしています。授業では、ディスカッションを始め、ロールプレイやシミュレーションなど、知識を応用する力や、人に伝える力を養う機会をたくさん設けています。

一次情報を収集する力

エキスポージャー(現地実習)では、被害者や加害者、政治の第一線で活躍する専門家や意思決定に関わるリーダーなど、一次情報に幅広く触れることに重きを置いています。メディアの情報を鵜呑みにせず信頼性の高い情報を常に追い求める力を育みます。

プログラム内容

テーマ①兵器がもたらす人道上の被害と向き合う [洋上ゼミ3コマ]



兵器は人を傷つけ、時に多くの命を奪います。軍縮や平和に向けた取り組みを考えるときに、兵器がもたらす人道上の被害を考える意味とは何でしょうか。洋上ゼミでは、核兵器がもたらす身体的・精神的被害、長期にわたる差別などの問題について広島・長崎の被爆者に直接話を聞きました。また、日本への原爆投下を命じたトルーマン元米大統領の孫であるクリフトン・ダニエルさんとも意見を交わし、時を経て、また国境を越えて被害の実相と向き合うことの意味を議論しました。

テーマ②兵器を禁止する：歴史に学ぶ成功への鍵 [洋上ゼミ2コマ+ハーグ・ニューヨークエクスポージャー]



大量破壊兵器の中で今でも禁止のための措置がとられていないのは核兵器のみです。化学・生物兵器や地雷、クラスター爆弾などが禁止された背景には国際法を活かした市民社会のたゆまぬ努力があります。学生はこれらの禁止へのプロセスについての事前調査をもとに、共通する成功の条件を議論し、昨今盛り上がりを見せている核兵器禁止条約に向けた動きについても取り上げました。ハーグでは化学兵器禁止機関（OPCW）を訪れ、ニューヨークでは長年軍縮運動に関わるコーラ・ワイズさんら平和活動家に話を聞きました。

テーマ③国際法と国連のしくみを理解する [洋上ゼミ5コマ+ハーグ・ニューヨークエクスポージャー]



国際法も国連が主導する集団安全保障のしくみも、抱える問題は深刻です。これらをきちんと理解しながら、しかし既存の枠組みを活かした解決策を考えることが求められます。学生は洋上ゼミにおいて、長年にわたり国連で軍縮の問題に取り組んできたランディ・ライデルさんとともに、この話題について議論を深めました。ハーグでは国際司法裁判所（ICJ）を実際に訪れ、司法という観点から国際秩序を考え、ニューヨークでは国連軍縮部を訪問し、国連の軍縮に向けた現在の取り組みを視察しました。

テーマ④『人道的軍縮へのアクション』を考える [洋上ゼミ8コマ+レイキャビクエクスポージャー]



軍縮を進めていくということは具体的に何を意味するのかを考えるため、洋上ではロールプレイを積極的に取り入れました。外交官、市民団体、ジャーナリスト、教育者など、役割やシチュエーションを変えながら何度もロールプレイをすることで、複数の立場・視点から軍縮という問題を考える機会を設けました。平和首長会議を通して核軍縮に取り組むレイキャビク市でのエクスポージャーでは、政治家が実現可能な具体的な提言をすることで、市のレベルでも軍縮問題を前進させるためにできることがあると学びました。

成果発表：国連総会第一委員会サイドイベントでのプレゼンテーション



学生は軍縮を話し合う国連総会第一委員会のサイドイベントで、洋上でまとめたアクションプランを発表しました。マーシャル諸島共和国と日本の両政府国連代表部とピースボートが共催したこのイベントには、広島・長崎の被爆者の他、軍縮教育家のキャスリン・サリバンさんなどがスピーカーとして参加し、外交官や国連職員が数多く参加しました。軍縮に向けた市民社会や若者の役割をまとめた学生たちのアクションプランは、参加者から大きな評価を受け、このイベントは国内外のメディアに報道されました。

2017年度の開催予定

ピースボートでは2017年8月に3週間程度の地球大学特別プログラムの実施を予定しています。詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ先

ピースボート事務局

Tel: 03-3363-7561

Fax: 03-3363-7562

univ@peaceboat.gr.jp

<http://peaceboat.org/projects/univ>